

指導の形態 教材等	日常生活の指導「排泄」 ～トイレへの抵抗をなくすために～	障がい種 等	特別支援学級 知的障がい
----------------------------	---------------------------------	-------------------------	-----------------

指導の概要やよさ

- ・トイレに行くことに抵抗のある児童生徒に、トイレへのプラスイメージを持てるようにした後、定時排尿が行えるようにするなど、児童の気持ちを大切にしながら段階的な指導を行った。
- ・年齢が上がるほど習慣を変える必要のあるトイレ指導は難しいとされる。そのポイントの一つとなるトイレへの抵抗をなくす工夫を指導に取り入れた。

児童生徒の様子

- 小学校5年生男子**
- トイレが排泄する場所だと理解しているが、便器に座ることへの抵抗感が大きい。
 - 定時排泄の習慣はなく、紙パンツに排泄している。
 - 教師の支援を受けても便器での排尿はできない。
 - ズボンやパンツの上げ下ろしはおおむね一人でできる。
 - 排泄の予告（サイン）は見られない。時折、排泄後に教師に知らせることがある。

目標

- 尿意を感じたときに、自分から教師に伝える。
- 布パンツで過ごし、便器に排尿をする。

支援のポイント

○トイレのイメージを変える工夫
 トイレに誘うと座り込んだり、寝転んだりして嫌がる様子がある場合、まずはトイレに対して**プラスのイメージ**を持つことを大切にする。

- <トイレへのプラスイメージの工夫>**
- ①便座に座った時に、ipad を使用して興味があるキャラクター等の動画を見る。
 - ②ウォシュレットの電源を切ってセンサーの作動音を消す。（音を怖がる様子がある場合）
 - ③冬には足元暖房を入れて下着を脱いでも寒さを感じないようにしたり、便座カバーをつけたりして、環境整備を行う。
 - ④排尿の強要はせず、便座に座ることができたら褒める。

○教育課程の工夫
 1時間目に新たに日常生活の指導の時間を設定し、毎朝決まった時間（9：00過ぎ）にトイレに行く習慣をつける。

○家庭や児童デイサービスとの連携
 学校と家庭で支援の方法等を細かに確認し合い、同様の取り組みを行うと習慣が付きやすい。排泄の成功回数が増えたと紙パンツよりも布パンツを好むことが多い。どこでも誰という時でもトイレに行けるように、相談支援ファイル等を活用して児童デイサービス等とも連携を図り、様々な場面での定着を図る。



○尿意を伝える手立ての変更
 始めは本児にわかりやすいように**トイレカード**を使った合図にする。しかし、カードを使うと咄嗟の時に合図が間に合わないことがあるので、トイレに行く習慣がついた頃から、腰を「と・い・れ」と3回叩くサインへ替える等、どこでも容易に伝えられるよう工夫する。